

## e-ビーフNEWS 北の牧場から

December 2024

十勝は ついに氷点下突入。

日ごと気温が下がり-7℃、日中でも氷点下ギリギリの真冬日です。お日様が上がってくるのもラジオ体操第一が始まるころ。それまで暗い寒い冬になりました。牧場作業でも午前中の一時のポカポカが救いです。

十勝を囲む日高山脈は真白。平野は積雪なく、畑起こしたこげ茶と小麦・牧草の濃緑のパッチワークが広がります。シーンとしている早朝、ハクチョウがクワークワーと励ましながら群れで飛んでゆきます。屋根にかかるぐらい低空飛行です。

牛舎も凍り始まりました。地べたはガンガンに凍り、水槽は毎日氷を割り、止水栓開けます。

今年漬け込んだスタッグサイロを開けました。ワインのヌーボー的な感覚かな。すごく酸味のあるデントコーンで牛たちが食べるかな・・・と心配そこそこにモリモリ食べ採食量が増加。これから厳しい冬を乗り越えるのに頼もしい食料です。間もなく白銀の世界です。



## 活動のお知らせ

環境リサイクル肉牛協議会 第21回資源循環型肉牛生産シンポジウム2024 終了報告書作成し共催・後援団体に送付

## NEWSばか読み

- 農水省 ゲップ由来のメタン削減の物質3-NOPを飼料添加物に指定 11/2:有効確認
- 内閣府 食育世論調査 コスパ、日帰り、試食が上位回答 11/2:まだまだできる
- COP16(コロンビア開催)閉幕 農業評価折り合わず課題持越し 11/2:先送りか
- 農水省 多面的機能支払交付を農業法人や土地改良区に拡大 11/4:
- 全農 24年産米の集荷が2割減 需給引き締め業者間競争激化 11/5:相場上げ
- 消費者庁 食品寄付でガイドライン案 転売禁止や品保管理など 11/5:規制ととるか
- ユネスコ 無形文化遺産に日本酒・焼酎の伝統的造りを日本に勧告 11/6:評価される
- 農水省 基本計画作成で耕作面積試算 30年に35%縮小 11/7:耕作放棄地が
- 農水省 12/8有機農業の日で同省HP特設サイトの掲載募集 11/7:効果は
- 福岡で牛感染症ランピースキン病 国内初確認 11/8:拡大阻止
- 作付け延べ面積過去最少の391万ha0.9%減 11/8:危機感
- JAそらち 廃プラでバイオコークスを製造 11/8:廃プラ処理と脱炭素に
- 牛ランピースキン発生で台湾向け輸出乳製品の一時停止 11/9:ほかの国に拡大か
- WMO 災害死者の6割が猛暑原因占める 11/9:気候対策必須

- 9月受託乳量が北海道2.4%増 分娩進み生産増 11/9:継続性
- 政府 経済対策で飼料高・飼料作物増産対策などの交付金 11/13:一過性
- 農水省 酪肉近見直し論点で飼料生産 輸入依存からの脱却 11/14:本気度
- 輸入米の拡がり スーパーの売り場にポジショニング 11/15:値上相場の良し悪し
- COP29開催 日本の再エネ比率が世界平均以下 エネ後進国 11/16:目標設定
- 25年度事業 スマート捕獲等普及加速化事業 11/18:スマートにできるか
- 福岡県 ランピースキン病のワクチン接種開始 11/19:風評被害懸念
- 農水省 24年産米作況指数101 679万t東高西低 在庫低水準 11/20:
- 24年度補正予算案 農地の大区画化や和牛消費拡大など 11/21:場当たり
- インバウンド旅行消費額 上期5.8兆円過去最高 11/21:好機か
- 9月農業指数 コメ急騰前月比20% 11/25:急すぎる
- 厚生労働省 23年成人の野菜摂取量過去最低 11/26:ともに食べよう
- 不動産研究 農地下落率が鈍化20年ぶりに1%下回る 11/26:
- 農水省 23年指定野菜の作付面積が10品目で過去最低 11/27:
- 農水省 25年度から水稲用途変更可に 11/28:臨機応変に対応
- 福岡県 ランピースキン病 肉牛で初発生 11/29:拡散の危険
- 財政審建議 飼料米助成除外やコメ備蓄見直し議論 11/30:議論論点相違

## 東京直近NEWS(11/29 Shi-REPORT)

## ホルス

市況相場は上げ基調も上場回数、頭数共に少ない。産地相対相場@1100前後変わらず。季節アイテムのカタロース引合い強く余剰無し。赤身、切落しも引合い強く一部ウデが若干余剰あるか。消費停滞感は継続状況で生活防衛意識の動きと、出回り頭数の減少から安価な国産牛としてホル去セットの新規問合せ増加傾向。量販の次年度MD政策からホルスの話題もチラホラ。

## 経産牛

経産牛北海道内は出回り頭数の大幅減はあまり感じられないが、本州の減少傾向は強い。酪農家離農も止まず、道内頭数は維持されている模様。本州から道内での買付情報も生体運搬コスト上昇で現実離れしている。相場は慢性的な頭数減からガリ枝の相場は強気維持。パーツ全体の大きな引合いは落ち着いているがバラ系は引合い強い。切落しも引合い強く、モモウデはやや落ち着いている。挽材は絶対量不足しており、また先々の減少傾向から価格上昇と引合い強く、要望単価も末端から上げ提示あり数量確保の思惑強い。次年度以降も含め慢性的な不足感が強まってきている。

## 1.畜産技術833号(2024.10)

### (1)研究レポート2:牛枝肉の"シミ"発生率に影響する生体、飼育管理、および畜処理要因の検証(遠矢宏美他宮崎県都農食肉衛生検)

牛枝肉のシミとは畜処理時の毛細血管障害による瑕疵のひとつです。特に対米輸出食肉取扱要綱の懸架放血は日本従来の横臥放血よりシミの発生率が10倍高いとされ、品種差もあり交雑種は黒毛和種よりも発生率が高く、これを克服して黒毛和牛対米輸出の促進には、スタンニング(気絶)後40秒以内に放血を心臓に近い腕頭動脈で行ない、適切なビタミンAコントロールを行えば多発性筋出血やシミを減らすことが可能と思われました。

### (2)海外情報3:ドイツ視察記「食肉処理ロボット」と「と畜場の動物福祉」(和賀正洋他、伊藤ハム米久HD技研)

ドイツの食肉処理施設の深刻な人手不足の解決について連邦食品研究所(MRI)が評価機関である食肉処理自動化RoBUTCHERプロジェクトについて説明を受けました。その技術はカメラによる体認識とAI学習による分割の最適化で標準的な食肉処理のフローでは従来とは異なった部分肉形状になりますがと畜場から部分肉分割までが1カ所で完結します。このシステムが現場で実装されるには導入コストなど課題も多いと思われました。

## 2.畜産技術834号(2024.11)

### (1)技術情1:強化哺育・粗飼料多給育成により生産した素牛を活用した黒毛和種去勢牛肥育への取組み(磯崎良寛、福岡県農林総試)

黒毛和種去勢肥育牛の日増体を0.88kgにする為に雄子牛に強化哺育を高タンパク・低脂肪の代用乳を1.2kg/日で12週間給与し、その後の粗飼料

多給による発育停滞を抑えました、更に育成~肥育前期に制限アミノ酸であるリジン70g/日やメチオニン25g/日をバイパス加工して給与すると27か月齢出荷時の枝肉重量が増加しました。

### (2)スペインのと畜場のアニマルウェルフェアと食肉処理ロボット技術(押田敏夫、日本食肉生産技セ)

スペインのと畜場での牛・豚に対する人道的取扱と各処理施設での実態を調査しました。スペインのアニマルウェルフェア(AW)の法規はEUの規則に準拠して国内法を整備し、と畜場にビデオ監視システムを巡らせ設置することを義務化しています。録画は公的獣医師サービスが必要に応じてアクセスできます。同国のアイラ社は豚肉生産現場で食肉処理ロボットシステムを開発・製造し、牛の背割りロボットなどを世界中のと畜場に設置しています。

## 3.日畜会報95巻:4号(2024.11)

### 1)人工知能を活用した黒毛和種肥育牛における超音波画像からのBMS No.推定(宮田あゆ他、帯畜大)

肥育牛のBMS No.は枝肉断面の脂肪交雑の程度から評価しますがこの研究では牛の生体時における超音波診断画像に人間の脳の働きを模したニューラルネットワークにデータ処理させAIにBMS No.を推定させました。推定精度は22.6~86.0%の範囲で枝重やロース芯の大きさと逆に関係が薄く皮下脂肪厚が小さいほど人工知能はBMS No.を過大評価し、精度向上の可能性が残されています。

## 資源循環型肉牛生産シンポジウム 2023

転載・再利用は固くお断りします

話題提供2.産地の挑戦・国産飼料から地域飼料へ「耕畜連携で地域の畜産を守れ」

アンガス牛による自給飼料中心の牛肉生産 4回シリーズ③

北海道子実コーン組合 日本メイズ生産者協会 宮北牧場 宮北輝代表

### ■食品副産物の給餌(必要な管理)

#### ①水分が多いことによる管理点

【夏季】 餌箱の中の微生物の繁殖を抑えること。(適正な給餌量で餌を残さないことや、餌箱を洗って衛生的に管理すること等)

【冬季】 餌箱の中で餌が凍らないようにすること。(適正な給餌量で餌を残さないこと)

②安定入手が困難であることによる管理点  
時期によって入手できる食品副産物が違うので、牛の食い込み量が落ちないように、切り替えや配合量に気を付けること。

### ■JA道央子実コーン組合との新たな連携 2021年~

水田畑を汎用コンバイン専用ヘッダーによる収穫風景

江別市の農家組合による収穫作業



収穫後・直排トラックへ



### ■JA道央の穀物倉庫→宮北牧場へ

各地域の子実コーンがすべて穀物倉庫で集荷・管理されている。

倉庫ではフレコンで保管



150トンのコーン・宮北牧場へ



### ■牧場で貯蔵・備蓄される子実コーン

コーン粉砕機(トラクターPIU用)

牧場での貯蔵・備蓄倉庫(最大280トン)



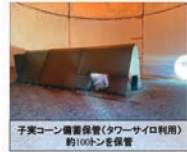
### ■子実コーンの給餌

天候不順やコロナ禍の影響より、食品副産物の入手が不安定になってきました。そのため、地域で生産された子実コーンを農場で粉砕し、ミキシングして牛に与えています。



### ■子実コーンの備蓄タンク 2023年4月

現在使用していないタワーサイロを子実トウモロコシの備蓄タンクとして再利用することを考えています。



### 今年から子実コーンの自家生産を開始



ハードコンテナで保管



乾燥機施設

### (株)丸智 コントラクター(長沼町)

10月26日収穫作業

